

一斗缶死体遺棄事件

隣の57歳男が逮捕されたが… 依然残るこれだけの謎



容疑者逮捕を受け、23日深夜、天王寺署に集まった報道陣

容疑者は逮捕されたが、大阪市天王寺区の一斗缶死体遺棄事件で、大阪府警捜査1課は23日、同区東高津町の無職藤森康孝容疑者(57)を逮捕した。捜査本部によると、DNA鑑定の結果、一斗缶に入っていた2人の遺体は藤森容疑者の妻充代(あつよ)さん(52)と長男庸了(のぶあき)さん(26)と判明。同容疑者は、14日から15日にかけて見つかった3個の一斗缶のうち1個が見つかったごみ捨て場の隣のマンションに住んでいる。

遺体は52歳妻と26歳長男

本紙は18日付記事で神奈川県警の元刑事で、現場

場刑事の「捉」の著者・小川泰平氏の分析を掲載。小川氏は「死体を遺棄した者が、窓から缶が見えるマンションに住んでいる可能性がります」とみていたが、まさにその通りの結果だった。

藤森容疑者の逮捕容疑は、昨年夏ごろから1年間に、充代さんの遺体を一斗缶に詰めて東高津公園などに遺棄した疑い。容疑者の逮捕で二つの区切りがついたとはいえず、依然として謎は多い。

藤森容疑者は捜査1課の調べに「一斗缶なんて捨てた覚えもないし、嫁のことも出ていなかったりで、どうでもうしているのか知りません」と、容疑を完全否認している。妻子がいつ、

どんな理由で死んだのか、あるいは殺害されたのか、遺棄するためにバラバラにしたのならなぜ長期間保管していたのか、遺体の見つかった部分はどうなっているのか―不可解なことがあまりに多すぎる。

現時点でわかっていることは、藤森容疑者が2006年5月ごろ「妻と息子が(06年)4月に失踪した。原因や動機は分からない」と、自ら家出人捜索願を提出していたことぐらい。当時、同容疑者は会社員で、庸了さんは大学3年生だったが、家族のトラブルや暴力の相談などは把握していないとしている。

すべての謎が解明されるまで、事件は終わらない。